

【発行・編集】 出口グループ研究発表大会広報部会・出口グループ研究発表大会実行委員会

「新時代へ」～明日へつなぐ高齢者福祉～ をテーマに 第4回出口グループ研究発表大会開催



4回目の開催に感謝

【開会挨拶】

「出口グループ研究発表大会も4回目を迎えました。諫早市からも3名の来賓があり、感謝いたします。職員の皆様もたくさん参加して下さい、ありがとうございました」



社会福祉法人寿光会
出口 喜男 理事長

他の手本になるように

【総評】

「新時代を迎えるにあたり、ICTやAIの活用が鍵になってきます。多職種の協働・連携が重要です。他の手本になるようなグループにしていきたいと思っております。皆さんも励んで下さい」



医療法人和光会
出口 晴彦 理事長

平成31年4月25日（木）、うき福祉村において「新時代へ」～明日へつなぐ高齢者福祉～ をテーマに出口グループ研究発表大会が開催されました。

関連7施設が、平成30年度に取り組んだ業務活動の中から一定の成果が得られた取り組みについて発表しました。

今年で4回目となった今大会は職員300名超が参加し、非常に重要な位置付けとなっています。写真やデータを織り交ぜながら、日頃の特色ある活動や取り組みの成果、今後の課題などを報告しました。

高齢者福祉に貢献期待

【祝辞】

「高齢者が多様化する中、QOLの向上や介護と医療の連携が求められます。介護・医療の両分野から互いの理解を深め、これからの高齢者福祉に貢献されることを期待しています」



諫早市健康福祉部
石橋 直子 部長



最優秀演題賞の表彰を受ける前田さん（恵愛荘）

恵愛荘が最優秀演題賞に輝く 優秀演題賞は恵寿病院

発表者は緊張した面持ちで登壇しましたが、いずれも施設ごとの特長が良く出た素晴らしい発表で、フロアの職員も真剣な眼差しで聞き入っていました。発表後は熱のこもった質問が飛び交い、他施設の考え方や特長について理解を深めました。採点の結果、最優秀演題賞には恵愛荘が、優秀演題賞には恵寿病院が選ばれました。



諫早市健康福祉部
古賀次長もコメント



熱心な質問が
数多く飛び交った

【座長を務めて】

各施設、多職種協働で日々の業務に携わっていることが感じられた大会でした。座長という貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



和光会 座長
林田 貴文さん
【恵仁荘】



寿光会 座長
角田 紀子さん
【光明荘】

状況に合わせて時間や流れを作っていかなければならないといった座長の難しさを学び、とても貴重で感謝の多い体験となりました。ありがとうございました。

【司会を務めて】



総合司会
鶴 智美さん
【恵仁荘】

今回、司会をさせて頂いた事で、たくさんの方の支えや入念な準備の元、この大会が行われている事を実感しました。貴重な体験をありがとうございました。

NEWロゴ誕生！知っていますか？ロゴマークの意味



出口グループの新しいロゴマークが完成しました。このコーナーでは、デザインや色がどのような意味を持つか、ご紹介いたします。

全体的なデザインは、DEGUCHIの「D」の文字をモチーフにしています。事業のイメージカラーとしては「いのち」をピンク、「医療」を青、「介護」を緑の3つの色で表現しました。

「いのち」には「生命」を感じるピンク、「医療」には「安心感」のある青、「介護」には「安らぎ」を連想する緑が配色され、名刺やパンフレットなど様々な用途に使用されています。

新元号も「令和」に決まり、新しい時代が始まる中、このロゴとともに出口グループも心機一転、新たなスタートが始まります。

「福寿園 坂本美樹」

新年度が始まって早一ヶ月、慌ただしい4月が過ぎて気持ちの良い5月がやってきました。

4月25日、4回目となる研究発表大会では、利用者様を取り巻く様々な環境の中で、個々のニーズをもとにそれぞれの専門性を活かした毎日のケアの大切さ、その取り組みや積み重ね等が今回のテーマに繋がるといふような各施設特徴のある素晴らしい発表でした。

今回広報委員として携わらせて頂きましたが、例年このようにして準備がなされ、各委員一人一人が大会を滞りなく遂行できるように努力がなされていたことを改めて感じました。

大会参加者・関係者皆様のご協力により、無事に終えることができました。誠にありがとうございます。



社会福祉法人 寿光会

グループホーム 恵 (特別養護老人ホーム 天恵荘)

「共に歩んだ1528日、そしてこれから」 ～人生の先輩から学んだこと～



元々頑固な性格の方であったが、入居直後から多くの訴えがあり、職員も不安な状態での生活が始まった。訴えをアドバイスと捉えることで職員が真摯に受け止められるようになり、入居者の表情や言動も改善された。



藤山 知香さん
(介護福祉士)

出口グループ研究発表大会で発表させて頂き、とても緊張しましたが素晴らしい経験をさせて頂きました。すごくいい勉強になりました。

参加職員の声

高齢者を入居者として見るだけでなく、一人の人間、人生の先輩として捉えた発表が印象的でした。

地域密着型特別養護老人ホーム 諫早中央

「腸内環境を整える取り組み」 ～カスピ海ヨーグルトと食物繊維を使用して～



腸内環境を整える取り組みを通して、便秘が改善するなどの効果が見られた。また、ユニット職員だけでなく看護師・栄養士と情報交換する機会が増え、体調の変化を共有できるようになった。



大久保 信泉さん
(介護支援専門員)

ユニット内での情報共有の大切さを改めて感じました。今後のケアに活かせるようにさらに工夫して取り組みます。

参加職員の声

自分たちの施設でも便秘傾向、慢性便秘の方が多いため、苦痛を少しでも緩和できたらと思います。

医療法人 和光会

在宅強化型老人保健施設 恵仁荘

「SRソフトビジョン®を導入して」 ～わかったことと今後の取り組みについて～



座位を可視化する事が出来るSRソフトビジョン®を導入した。当施設で行っている除圧方法の検証と職員の意識調査を行う事で、課題がわかり、意識の変化や知識・技術の向上につなげることができた。



平野 周作さん
(介護福祉士)

職員の技術・知識不足が課題と感じました。今後は、利用者の座位姿勢の評価等に活用し、職員のスキルアップに繋げていきたいです。

参加職員の声

褥瘡予防に活かせる内容でした。自分たちの施設でも予防に向けて色々な方法を調べてみたいですね。

恵寿病院

「経口摂取に対する病棟職員の意識改革と 知識・技術の向上を目指して」 ～療養病棟における摂食嚥下障害患者との 関連性を考える～



食事介助に関する勉強会や患者個別マニュアルを作成することで、介助者の知識・技術が向上し、援助に対する不安の軽減が図れた。また、統一したケアにより患者の嚥下機能を維持・向上できた。



指方 絵美さん
(看護師)

病棟職員をはじめ、多くの人に支えてもらい、学びのある研究ができました。今後も学習し、より良い援助で患者様を支えたいです。

参加職員の声

勉強会参加率100%の取り組みを参考に、自分たちも積極的な個人個人のスキル向上に繋がりたいです。

養護老人ホーム 福寿園

「共に過ごす時間を目指して」 ～ICT化への挑戦～



記録の電子化により、情報の共有や利用者への統一したかわりができるようになった。今後もICT化を進め、利用者と一緒に過ごす時間を目指し取り組んでいきたい。



浦 明日香さん
(介護支援専門員)

周りのスタッフのサポートに助けられ、いい経験ができました。今後も利用者様の為に色々な事に挑戦していきたいです。

参加職員の声

「導入が困難」だけで終わらず、委員会を立ち上げ、有効的に活用したところが参考になりました。

盲養護老人ホーム 光明荘

「視覚障害者の個別援助」 ～光明荘開設から40年 変わりゆく入所者背景～



若年ご利用者の増加に伴い、ニーズが多様化する中、若年ご利用者が生活意欲を持って頂く為の援助を行った。望む生活を可能な限り近づけるよう一人一人を理解しようとする姿勢の大切さを学んだ。



小森 秀樹さん
(介護福祉士)

事例を通して、一人一人のご利用者に共感、寄り添う事の大切さを再認識しました。今後の援助に生かします。

参加職員の声

入所理由や個別ニーズの多様化が避けられない中、今、自分たちが何をすべきか再考しました。

介護医療院 恵愛荘

「インカムランシーバーの導入」 ～効率的な協力体制を目指して～



課題であった職員の所在確認や情報共有の改善を図る為インカムを導入した。その結果、転倒転落事故の減少、業務効率化により質の高いケアを提供できる体制を整えることができた。



前田 美弥子さん
(看護師)

インカムを使い今後も職員の連携体制を整えるためにリーダー的人材を育成し、施設の成長につなげたいです。

参加職員の声

効率的な協力体制に共感します。入所者の急変時の対応などに必要では無いかと思いました。

出口グループホームページ内に 特設ページ公開中!

大会抄録集や当日の写真など、広報誌に載らなかった情報を期間限定で配信しています!



QRコードから見る場合

- ① 右のQRコードを読み取る
- ② 読み取り内容をタップする



PCやスマホから検索して見る場合

- ① 「うき福祉村」で検索
- ② 職員研究発表大会のバナーをクリック

うき福祉村



こちらをクリック